

消化器・肝臓センター



NEW-す

NO. 66

2020.12



膵精密超音波検査を使用した検診

すい臓がんは、日本のがん死亡の原因の第3位で、その診療体制の改善は医療上の大きな課題です。

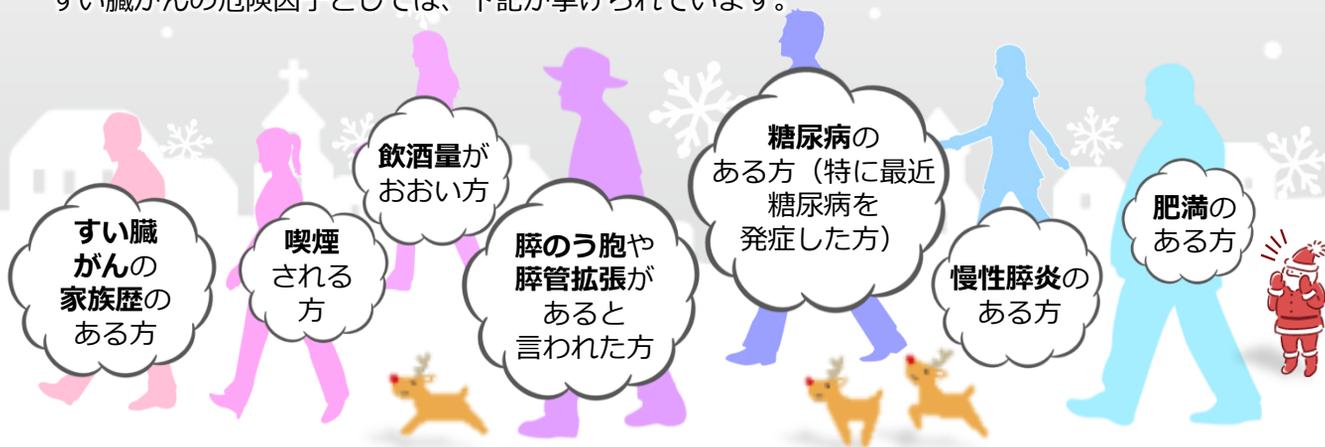
すい臓がんの早期発見に有効な手段

すい臓がんの治療成績が不良である大きな原因の一つは、早期発見が難しいことで、日本で診断されるすい臓がんのうちステージⅠ（日本膵臓学会の診断基準）で診断されているのは、全体の4%と極めて少ない状況です。そこで多くの施設ですい臓がんの早期発見のための試みがなされていますが、大阪国際がんセンターでは2000年前後より、膵臓に特化した腹部超音波検査を使用した「膵検診」を実施しており、それによって診断されるすい臓がんのうち、ステージⅠの割合は約60%と高率で、すい臓がんの早期発見に非常に有効であることがわかってきています。

より広範囲の観察が可能

膵精密超音波検査は、膵臓の観察に約40分かかり、丁寧に観察します。さらに通常の腹部超音波検査では、消化管ガスなどが膵臓の観察の邪魔をしますが、膵精密超音波検査は体位を半坐位で行うこと、さらに胃充満法（飲水負荷）も併せることで、消化管ガスの影響を大幅に減らすことができます。これによって、通常の検査では観察できない膵体尾部・尾部の描出が可能となります。

すい臓がんの危険因子としては、下記が挙げられています。



現在、当院では膵精密超音波検査を使用し膵臓に特化した検診を始める準備をしております。

消化器内科 山田 幸則
臨床検査科 山本 倫江

【お問い合わせ】 健診センター



KAZUKA

市立貝塚病院
TEL : 072-422-5865